

## 北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第122回本部会議 記録

日 時／令和4年8月19日（金）

15：30～16：10

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

### 【副本部長（小玉副知事）】

これより北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第122回本部会議を開催します。まず、道内の感染状況等について新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

### 【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

それでは資料1をご覧くださいと思います。まずスライドの1です。主な指標の状況ですが、昨日8月18日時点で新規感染者数は、全道や札幌市で今週先週比が1を下回っておりますものの、人口10万対では札幌市926.7人、札幌市を除く地域で844.0人、全道で875.3人と、引き続き高い水準で推移しておりますほか、療養者数は増加傾向にございます。

また、病床使用率ですが、全道で40.1%と、第6波で最も高かった40.1%と同様という状況になっているほか、札幌市でいきますと45.7%、札幌市を除く地域が37.4%と、引き続き増加傾向が続いております。

続いてスライド2です。各圏域の状況ですが、新規感染者数の先週比が多く圏域で1を下回りましたものの、人口10万対では十勝圏で1280.2人と千人を大きく超えるなど、厳しい圏域もございまして、引き続き全ての圏域が高い水準で推移をしています。療養者数も同様の傾向にあります。また、病床使用率も十勝圏で50%を超えているなど、多くの圏域で増加傾向が継続しております。

続いてスライド3、総評の1です。全国の状況です。新規感染者数が減少に転じているものの、病床使用率は増加しておりまして、国の専門家は首都圏を中心に減少傾向で、全国でも減少に転じておりますが、これまでで最も高い感染レベルが継続しています。また、夏休み・お盆などで検査・診断、報告の遅れなどもあり、感染状況の過小評価が生じている可能性があるという指摘をしております。本道は他の都府県と比較しますといずれも低い状況が継続しております。

医療提供体制です。療養者数は先週と比べ増加しておりますものの、増減を繰り返しております。病床使用率は増加傾向が続き、今年のピークと同水準で、また、札幌市も今年のピークの2月10日の48.2%を上回っておりますが、ここ数日は減少し、45.7%です。地域によっては、十勝圏が51.2%と高い水準で、重症病床使用率は横ばいとなっております。

感染状況です。新規感染者数は、8月17日に、7月3日以来となります45日ぶりに先週比1を下回りましたものの、高い水準で推移しております。年代別では30代以下の割合が約5割で、10代未満を中心に減少し、一方で60代以上の割合は増加しております。

続いてスライドの4、総評の2です。感染者がより増加しやすいとされるBA.5系統は、国の専門家によりますと、国内の検出割合は増加し、概ね置き換わっていると指摘されております。道内でもこれまでに322件が検出され、道立保健所分の検出率は現在87.1%となり、全国と同様の状況になったと考えられます。

今後の対策です。新規感染者数はここ数日、先週比が1を下回っておりますものの、お盆の医療機関の休診や帰省など、人の移動の活発化などの影響もありますので、今後の感

染状況について慎重にモニタリングを行います。

お盆時期や夏休みが終わり、生活が通常に切り替わる中、改めて「夏の感染拡大防止パッケージ」の取組を、市町村とも連携しながら、道民の皆様や事業者の方々に再確認いただくよう働きかけてまいります。そうした働きかけを通じ、基本的な感染防止行動の徹底やワクチン接種の検討、感染防止対策と社会経済活動の両立に向けた取組などを集中的に展開してまいります。なお、この詳細につきましては、スライドの32から36に資料を添付しておりますので、後程ご覧いただきたいと思ひます。

続いて検査・外来体制の確保ですが、8月10日以降、抗原定性検査キットの不足が生じている診療検査医療機関へのキット配布を開始し、これまでに214ヶ所、約4万7,000回分を配布しております。

また、診療検査医療機関の負担軽減のため、石狩振興局管内の18歳から39歳で重症化リスクの低い有症状の方を対象として、8月23日から検査キットの配布受付や、陽性登録をWEBで実施し、健康観察へつなぐ取組を開始して、地域の感染状況や医療提供体制を踏まえながら、順次、取組を全道に展開してまいります。なお、この詳細はスライドの37に資料を添付しておりますので後程ご覧いただきたいと思ひます。

続いてスライドの5、総評の3です。高齢者施設等の職員に対する頻回検査ですが、抗原定性検査キットの確保など、その実施体制が整いましたので、8月19日に国に実施計画を提出しまして、来週以降、地域の感染状況など実情に応じて調整を進めた上で、取組を開始してまいります。

無料検査事業のうち感染拡大傾向時の一般検査事業は、9月末までその期間を延長してまいります。

続いて、現在、札幌市を含む道央圏や十勝圏の即応病床は最も高いフェーズ3とされている中、今後の全道的な入院患者の更なる増加を見越しまして、8月19日から全道でフェーズ3に引き上げてまいります。

また、医療従事者の方々の感染や、濃厚接触などが増加し、多くの方が職場を休まざるを得ない状況が続く中、関係団体や医療機関とも連携しまして、広域的な入院調整を行うなど、必要な方に適切に医療が提供できるよう対応してまいります。この参考といたしまして、フェーズと病床の推移について、スライド38を添付しておりますので、後程ご覧いただきたいと思ひます。

続いて自宅療養セットですが、この迅速な配送については、8月13日から委託先を1社追加いたしまして、2社体制での配送を開始するとともに、8月25日には更に1社追加し、3社体制として配送力を強化してまいります。また、配送手法の一層の効率化を図るため、8月23日から電子申請の受付を順次開始してまいります。

続いてスライドの6、総評の4です。ワクチン接種ですが、3回目、4回目の接種促進に向けまして、市町村の取組事例を広く共有し、その横展開を図るなど市町村を支援してまいります。

また、オミクロン株対応ワクチンですが、国の審議会では初回接種者を対象とすることや、接種時期は10月半ば以降とすること、また、自治体で接種券の発送準備を行うことなどの議論がなされておまして、関連情報の収集や市町村への提供などに努めてまいります。

全数把握に関する感染症法上の取扱いなどに関しましては、国は見直しの検討を進める考えを示し、8月17日には専門家との意見交換を実施しているところです。また、全国知事会としましても、8月16日に早期の見直し着手を求めたところでありまして、引き続き国の動向を注視してまいります。

続いて、スライド7以降について何点か主要な動向など補足説明いたします。

少しスライドを飛ばしまして、スライドの25をご覧くださいと思います。棒グラフの右側になりますが、新規感染者数が大幅に増加している中、特に40以上の年代の増加幅が大きい状況です。また、左側の円グラフの通りですが、感染者割合は引き続き30代以下の割合が高くなっておりまして、足下で40以上の割合が増加しておりまして、中でも60代以上は実数の増加はもとより、先月1日に11%程度であった全体に対する割合が、現在は17%を超えるなど、増加傾向が顕著です。

続いてスライド26をご覧くださいと思います。医療施設などでの集団感染が継続的に発生する中、医師や看護師などの医療従事者にも感染が広がるなどいたしまして、マンパワー不足にもある中で、確保病床の運用にも影響が生ずるなど、医療現場などは現在厳しい状況でございます。

スライド27をご覧くださいと思います。ワクチン接種ですが、左側の表の3回目接種は、8月17日現在VRSベースで、約344万7,000人、接種率は65.9%、このうち65歳以上は約150万9,000人、接種率は90.5%、また、右側の表ですが、4回目接種は、これまで約83万人が接種し、60歳以上は約77万7,000人、接種率は38.7%です。

続いて下段の表です。小児の接種率ですが、1回目が21.2%、2回目19.4%と、引き続き全国を上回る状況が続いております。

次にスライド29をご覧くださいと思います。丸の一つ目です。3回目接種を加速するため、特に若年層をターゲットに、札幌市と共同で実施しております市営地下鉄の車内広告に加えまして、SNSへのWEB広告を更に進めてまいります。

丸の四つ目です。4回目接種は引き続き、市町村支援に取り組みますとともに、新たな取組として4回目接種のチラシを、高齢者の方などが比較的目に触れやすい医療系情報誌やフリーペーパーに掲載するなどしながら、感染急拡大を踏まえ、高齢者をはじめ重症化リスクのある方などの4回目接種、また、10代の3回目接種など、道のセンターも活用しながら、市町村と連携して取組を進めてまいります。

続いてスライドの31をご覧くださいと思います。丸の一つ目で道のセンターでのノババックワクチンですが、9月4日（日）接種分も既に予約枠を満たしている状況にありまして、次の9月11日（日）接種分は、来週の23日（火）から予約受付いたします。

丸の二つ目の3行目になります。ノババックワクチンの9月以降の供給ですが、国から先般スケジュールが示されたところでありまして、住民の皆様が身近な地域で接種できますよう接種会場の設置などについて各市町村に改めて依頼をしております。

丸の三つ目、道の接種センターでのモデルナワクチンの3回目、4回目接種ですが、来週以降でいきますと、残すところ27日（土）のみとなっております。接種を希望される方へ早めの予約の呼びかけをしております。

その他のスライドにつきましては本日の説明に関するデータあるいは情報ですので、後程ご覧くださいと思います。

資料1の説明は以上でございます。

続きまして、資料2をご覧くださいと思います。道内の感染状況等について専門家や有識者の皆様のご意見を伺いますとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせしているところです。

有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当である旨のご意見をいただいております。その内容をご紹介しますと、1ですが、陽性者登録センターの道民への周知に当たっては札幌市の取組と合わせてわかりやすい周知を心がけてほしい。2ですが、新学期を迎え

る時期となり全道域での感染者の増加が懸念され、個々人が感染対策をしっかりと行うことが重要と考えている。3ですが、新学期が始まる学校でも基本的な感染防止行動の徹底や、感染者の発生時の初動対応について、今一度呼び掛けてほしい。こういったご意見が寄せられております。こうした面につきましては今後の対策の参考としてまいります。

私からの説明は以上でございます。

#### 【副本部長（小玉副知事）】

次に札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

#### 【山口札幌市感染症担当部長】

札幌市の山口でございます。資料3に基づきまして、札幌市内の感染状況についてご説明をいたします。

それでは、最初のスライドをご覧ください。新規感染者数の1週間の合計についてでございますが、昨日8月18日時点で1万8,170人、人口10万人あたりでは、926.7人となっております。お盆期間の影響もありまして、感染状況の傾向がつかみづらい場面でございますが、新規感染者数は高い水準で推移をしております。

それでは、次のスライドをご覧ください。札幌市内の入院患者数の状況でございますが、入院患者数は黄色い棒グラフでございます。昨日時点では323人と前回の第6波のピーク288人を超えて高い水準となっております。

また、市外からの患者の受入数も徐々に増加が見られておりまして、確保病床数の利用率については、5割に近い状況となっております。

なお、重症患者数の赤の折れ線グラフでございますが、1人と低い水準であります。

高齢者施設でクラスターが頻発している影響もありまして、80歳以上の入院患者数が約5割、60歳以上で区切りますと、入院患者数の約8割を占めていることから、市内医療機関へ協力要請いたしまして、要介護の高齢者を受け入れる病床を増やしていただいたところでございます。

しかしながら、入院患者の増加に加えまして、医療従事者の感染などにより、入院先の調整に時間を要するなど、厳しい状況が続いております。

それでは、次のスライドをご覧ください。検査件数のスライドでございます。直近1週間の検査件数は2万1,376件と、お盆期間に医療機関が休診していたためもありますが、減少しているところでございます。

陽性率につきましては昨日時点で85.0%と増加が続いています。なお、陽性率が非常に高い数値で推移していることにつきましては、現在、有症状の方を対象として検査を実施していることや、また、医療用の抗原検査キットを用いた自己検査が増加しており、この場合は陽性の場合のみの報告をされることも影響していることから、今までとは状況が異なるものと考えてございます。

感染者数は高い水準で推移しているほか、重症化リスクの高い方への感染を防ぎ、医療への負荷をできるだけ抑えるためにも、場面に応じた基本的な感染対策の徹底とワクチン接種の促進が重要と考えております。

以上です。

**【副本部長（小玉副知事）】**

次に各部、振興局から順次発言をお願いいたします。まず、高齢者支援局長からお願いいたします。

**【板垣保健福祉部高齢者支援局長】**

お疲れさまでございます。保健福祉部高齢者支援局でございます。

資料はございませんが、高齢者の感染防止対策についてご報告申し上げます。

今の時期、夏休み期間中に加えまして、お盆時期の帰省や旅行など、人の移動が活発になり、幅広い世代が交流する機会も多く、感染のリスクが高い時期になっており、高齢者の感染者数も高止まりしておりますことから、重症化リスクの高い高齢者や、そうした方々と会う方に対し、今一度、慎重な行動を呼びかけることが重要であります。

このため、北海道老人クラブ連合会や北海道社会福祉協議会などの高齢者関係団体に対しまして、3密回避や、会話のときにマスクを着用するなどの基本的な感染防止行動の徹底や、混雑している場所や感染リスクの高い場所はできる限り避けるなど、今月末までを集中取組期間とした「夏の感染拡大防止パッケージ」について注意喚起の周知を図ったところでございます。

今後とも、時期をずらして帰省や旅行される方などもいらっしゃると思いますので、引き続き、市町村や関係団体の皆様とも連携しながら、高齢者の皆様に対する感染防止対策の徹底についてご理解とご協力を呼びかけてまいります。

私からの説明は以上でございます。

**【副本部長（小玉副知事）】**

次に後志総合振興局長をお願いします。

**【天沼後志総合振興局長】**

後志総合振興局です。後志管内における感染拡大防止の取組につきまして、資料4に基づきましてご説明をさせていただきます。

後志管内の感染状況につきましては、7月に入りまして新規感染者数が急増いたしました。8月10日には1日当たり329名と、過去最多を更新するなど、感染の拡大が続いているほか、医療機関、高齢者施設等で21件の集団感染事例が発生しておりまして、今後もお盆や夏休みなどの影響につきまして、十分な警戒が必要な状況になってございます。

2の感染拡大防止の取組についてでございますが、当振興局におきましては、私をはじめ、幹部職員と市町村長が感染状況などにつきまして、電話等で日々、情報共有を図っておりますほか、コロナ対策に関する管内市町村長との意見交換会の開催など、市町村長が出席する会議などの機会を捉えまして、道の感染防止の取組につきまして、直接ご説明し、意識の共有を図っているところでございます。

また、感染防止行動の徹底とワクチン接種に関しましては、特にお盆前の道の感染拡大防止の取組の徹底に向けまして、改めて振興局から取組のポイントにつきまして明示した啓発チラシなど、市町村や商工会議所、観光協会などの関係団体、社会福祉施設等に周知いたしますとともに、振興局のホームページ、SNS等でも発信をしてきたところでありますし、管内の小樽市からも「小樽潮まつり」などのイベントごとに、感染防止行動の徹底などを呼び掛ける市長メッセージをSNS等で発信していただいております。

また、ワクチンの3回目接種につきまして、管内は70.59%と、全道平均を上回っており

ますが、若年層の接種率が低い状況にありまして、部活動・旅行やお祭りといった活動が活発に行われる夏休み中の感染者の増加も危惧されますことから、ワクチン接種等に係る啓発リーフレットにつきまして、保健所を中心に管内自治体と連携いたしまして、道の駅、温泉施設など集客が見込まれる施設、それから図書館などにも配置をいたしまして、高齢者、重症化リスクの高い方や、それらの方と接する方の双方に慎重な行動をお願いするとともに、積極的なワクチン接種につきまして、呼びかけを行ったところであります。

また、後志教育局におきましても、夏休み後を見据えまして、教員の頻回検査の実施など、学校教育活動における感染防止対策の徹底ですとか、部活動における健康状態の多重チェックなどの感染防止対策の徹底等につきまして、各学校に周知をしたところであります。

次に、感染防止対策と社会経済活動との両立に関してでございますが、振興局といたしましては、これまで地域イベント開催時における留意事項の周知をはじめ、北海道認証店応援キャンペーンにつきまして、飲食店に対しまして、プレミアム付きクーポンの利用対象店となることなど参加するメリットなども説明した上で、第三者認証の取得促進の依頼を行ってきたところであります。

また、当管内は国際リゾートや観光都市を有しておりまして、特に夏場の観光のハイシーズンにおける人手不足への対応など、社会経済活動の回復に向けました一層の取組が求められておりまして、「道外人材確保緊急支援事業」、いわゆるサマチャレ等の緊急経済対策に係る関連事業につきまして、市町村向け説明会を実施するとともに、経済団体等への訪問や会議の場などでの周知、高校生向けの対面での企業説明会を独自に行うなど、社会経済活動の回復に向けた取組も合わせて実施してきているところであります。

最後に、保健・医療提供機能の十分な発揮に関してですが、医療機関、高齢者施設等でのクラスターの発生状況を踏まえまして、今週から保健所を中心に感染発生の初期段階からの施設の監視によるクラスターの未然の防止と、発生後の迅速な対応を行うための取組としまして、保健所内にクラスター班を新たに設けまして、体制強化を図ったところであります。

また、保健所への応援職員の派遣につきましても、感染の拡大を受けまして、随時増員するなど、保健所の機能が十分に発揮されるよう、局全体で連携して応援体制をとっているところであります。

当振興局といたしましては、引き続き、お盆や夏休み等の影響による感染状況も注視しつつ、市町村、関係団体と連携しながら、夏の感染拡大防止パッケージが道民や事業者の皆様幅広く浸透し、効果的な対策となるように取り組んでまいりたいと思います。

以上でございます。

#### 【副本部長（小玉副知事）】

次に、十勝総合振興局長をお願いします。

#### 【芳賀十勝総合振興局長】

資料5に基づき、十勝管内における感染防止対策の取組について説明いたします。

まず、十勝管内の新規感染者数は、一番上の棒グラフのとおり、7月中旬から徐々に感染者が増加する傾向を示していましたが、8月10日にこれまでの新規感染者を大きく更新する770人を記録し、それから5日連続で700人台となるなど、急速に感染が拡大したところです。中ほどの丸の二つ目、1週間ごとの新規感染者発生の推移を見ても、7月15日の週

から、週ごとに新規感染者が増加する傾向を示すとともに、それに比例して、病床使用率も上昇し、直近の8月12日から18日の週では、59%となりましたが、数日前から減少に転じ、本日の状況としては、概略値ですが、47.3%となっており、直ちに病床がひっ迫する状況にはありません。

また、一番下の丸の三つ目、集団感染の概要にありますとおり、医療機関と福祉施設ではクラスターが多く発生している状況です。こうした状況を踏まえ、十勝総合振興局では、これまでの新規感染者数を大きく超え、「勝毎花火大会」や「平原祭」などのイベントや、お盆による帰省などで人との接触が大きく増える時期を控えた8月10日に、右下にありますとおり、緊急の地方本部会議を開催し、NHKや各新聞社などの報道機関を通じて、管内の皆様に対し、広く注意喚起や感染防止対策の徹底について周知を図ったところです。

その具体的な内容としては、裏のページをお開きいただきたいのですが、その一番上の「1 保健医療提供機能の十分な発揮」にありますとおり、これまで行ってきました保健所への振興局職員応援派遣や管内市町村からの保健師の派遣などに加えまして、医療機関の窓口業務のひっ迫に対応し、2次、3次の救急医療の適切な診療体制を確保するため、医師会などと連携し、お手元の別紙資料にありますとおり、振興局長と医師会長が連名で発熱した場合の連絡先や土日や時間外に症状が悪化した場合の診療方法の周知、感染した場合に備える解熱剤と食料等の準備などの呼びかけを行っているところでございます。

なお、現在、管内の医療機関の検査態勢がひっ迫していますことから、振興局としましては、医師会などとも連携を図りながら対応を検討しているところでございます。

資料5の「1 保健医療提供の機能の十分な発揮」に戻っていただき、丸ポツ5番目にありますとおり、新規感染者の増加に比例して病床使用率も急激に上昇するといった十勝の特徴を見越し、医療機関でのクラスター発生など、看護師の確保が厳しい状況になっている中ではありますが、管内の病院に対してローリングをかけ、フェーズ3の更なる増床への協力を強く依頼し、病床のひっ迫を防止する取組を行っております。

次に、「2 感染防止行動の徹底とワクチン接種」では、地域FM放送などを活用した感染防止対策の徹底に関する啓発などの取組に加え、今年度2度目の管内市町村長との連名による住民への注意喚起と感染防止対策の徹底、ワクチン接種の奨励に関するメッセージを発出したほか、無料検査所の活用による感染防止行動の呼びかけや、クラスターの多い高齢者施設などに対して、重症化リスクの高い方を守るための感染防止対策の徹底の周知、学校に対して、感染防止対策の適切な対処の徹底を通知したところであります。

次に一番下「3 感染防止対策と社会経済活動の両立」では、社交組合や観光連盟、農業団体など、業界団体に直接赴いて感染防止ガイドラインに基づいた感染対策の徹底を依頼したところであります。

十勝管内の新規感染者は、8月17日が272人、8月18日が568人、本日が772人と、高止まり傾向を示し、病床使用率も本日で47.3%とやや低下しているものの、今後、お盆明けと夏休み明けに伴い、新規感染者の増加も予想されますことから、十勝総合振興局としましては、引き続き、管内市町村や医師会などと連携を図りながら、感染者への対応や感染防止対策、医療機関のひっ迫防止対策など、状況に応じた先手先手の対応に心がけた取組を全力で進めてまいります。

以上です。

#### 【副本部長（小玉副知事）】

このほか各部、振興局からご発言ございませんか。なければ本部長お願いいたします。

## 【本部長（知事）】

本日の道内の新規感染者数は8,632人と、2日連続で過去最多を更新しました。8月17日には7月3日以降、45日ぶりに今週先週比が1を下回ったわけではありますが、その後も感染者数は高い水準で推移している状況にあります。

また、全道の病床使用率は40.1%となりまして、今年のピークであった40.1%と同じ水準になっています。現在の状況には、お盆時期に医療機関の多くが休診になっていたこと、そして帰省による人の動きが活発化した影響が現れている可能性があります。また、国の専門家からも感染状況の過小評価が生じている可能性があるところと指摘されています。今後、慎重にモニタリングを行って動向を見極めていく必要があります。

こうした状況の中、BA.5対策強化宣言のもとで、道、道民、事業者が一体となった取組を「夏の感染拡大防止パッケージ」として進めております。感染者数が高止まりする中、お盆時期や夏休みが終わり、生活が通常モードに切り替わるということで、感染が再び拡大することも懸念されます。各本部員、地方本部員においては、市町村や関係団体と連携しながら、こうしたタイミングを捉えて、道民の皆様、事業者の方々にパッケージの取組を再確認していただくよう働きかけることをお願いいたします。

また、道としては、保健・医療提供機能を十分に発揮させる取組を進めてまいります。今後の入院患者の増加を見越して、即応病床のフェーズを引き上げます。現在、道央圏と十勝圏は、最も高いフェーズ3としているところではありますが、本日から全道をフェーズ3に引き上げ、295床を増床いたします。

医療従事者の方々の感染や濃厚接触などが増加し、職場を休まざるを得ないという状況が続く中、関係団体や医療機関とも連携して、必要な方に適切に医療が提供できるように対応してまいります。さらに発熱外来への受診の集中を緩和するため、「北海道陽性者登録センター」を設置いたします。札幌市は既にこちらと同様の機能を運用していますので、8月23日から札幌市を除く石狩管内において、検査キットの配布とウェブでの陽性者登録を行うことといたします。今後も地域の感染状況などを踏まえまして、石狩管内以外、全道で順次展開をしていくことを進めてまいります。

高齢者施設等における職員に対する頻回検査につきましては、本日、国に頻回検査の実施計画を提出いたします。来週以降、地域の感染状況など実情に応じ開始いたします。速やかに施設等との調整を行うようお願いいたします。

また、自宅療養者の増加に対応し、自宅療養セットの迅速な配送に取り組んでまいります。既に8月13日から2社によります配送体制となっているところではありますが、8月25日から3社体制とし強化いたします。それに加えて、8月23日からは電子申請の受付を順次開始し、配送手法の一層の効率化を図ってまいります。こうした対応を通じ、療養者に1日も早く届くように取組を進めてまいります。

そして、オミクロン株に対応したワクチンについてであります。国では10月半ば以降、2回目接種を終える方は全てを対象とし接種する方向で検討されております。道としても速やかに対応できるように関連する情報の収集に努めるようお願いいたします。

最後になりますけれども、全数把握の見直しについてであります。国は知事会からの提言などを受けて、早期の見直しに向けて検討を進めるということで考えが示されました。保健所や医療機関の負担を軽減するためには、現在の感染拡大の収束を待つことなく、速やかな検討が必要であると考えてます。今後の国の動向を注視するとともに、先を見据えた課題の整理を行うように指示をいたします。

私から以上です。



**【副本部長（小玉副知事）】**

本部長から指示のあったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いいたします。  
以上をもって新型コロナウイルス感染症対策本部の第122回本部会議を終了いたします。

（了）